JAPAN JOURNAL OF GOLF EDUCATION

ゴルフ教育研究

Vol.5 No.1

CONTENTS

//	恣	业	1
		小十	//

・「Gちゃれ」のモデルケースの提示	髙丸 功	•	•	•	•	•	•	1
・三者連携協定後の大学ゴルフ授業 一激変した現場レポートー	北 徹朗			•	•	•	•	4
・東海地区初の G ちゃれ 「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告	高橋憲司		•				•	7

大学ゴルフ授業研究会

資 料

【資料】

「Gちゃれ」のモデルケースの提示

髙丸 功(学習院大学)

キーワード: ゴルフ授業、ゴルフ場体験、モデルケース

【はじめに】

2015年8月に第1回を開催して以降、これまでに39回の「G ちゃれ」を開催し、延べ627名の学生をゴルフ場へと引率してきた(2018年3月現在)。試行錯誤を繰返しながら実施していく中で、各大学の授業形態や地域特性に合わせた形でいくつかの開催パターンが確立されつつある。そこで、これまでに開催された「G ちゃれ」をふり返り、いくつかの実施スタイルごとにまとめ、基本的な「G ちゃれ」モデルケースを提示する。モデルケースの提示が、「G ちゃれ」の活性化に寄与し、大学ゴルフ授業の更なる充実に貢献することを期待する。

Gちゃれの定義

2016年6月27日の、産学連携協定調印以降に、大学ゴルフ授業研究会およびGMAC関連団体の仲介を受けて設立された、ゴルフ授業ならびにそれに準ずる教育(準正課・正課外)の中で、ゴルフ場体験を行う活動を「G ちゃれ」とする(一般社団法人大学ゴルフ授業研究会)。

Gちゃれとは

大学でゴルフ授業を受講した人向けの課外教育プログラムです。「G」には、ゴルフに関わるあらゆる用語の頭文字のイメージ(Golf、Green、Gentleman、Grass、Grace・・等々)が込められ、参加した皆さんが Good Golfer になることを目指します。2015年に武蔵野美術大学で始まりました。

【Gちゃれの分類】

- 正課外の授業終了後に実施 長期休業中の平日開催・複数校・単独校
- 2) 正課内で授業最終回をゴルフ場で実施

長期休業中の平日開催・単独校

- 3) 正課外だが、授業の途中で実施 中間 G ちゃれ:主に日曜日の午後
- 4) プレーはせず見学するもの 正課内 90 分間
- 5) 正課内で集中形式にて実施するもの 長期休業中、宿泊を含む
- 6) その他ゼミ活動など

【Gちゃれのカリキュラム・モデルケース】

A. 正課外·正課内学期終了後

夏期・冬期・春期休業中の平日開催

10:00 集合 (クラブバスで移動中に、到着後の流 れを説明する)

10:30 受付(フロント、貴重品ロッカー、ロッカールームの利用法を学ぶ)

10:45 開講式

11:00 講義 (日本のゴルフ場の現状等について; 講師は日本ゴルフ場経営者協会理事等)

11:30 ショット練習・パット練習・アプローチ練習(ゴルフ場の設備状況による。各 20 分程度。コインを使用して販売機から購入)

12:30 昼食(レストランまたはコンペルームを利用)

13:30 ラウンド (4H・2 時間程度)

15:30 入浴 (ゴルフ場の浴室の利用法を学ぶ)

16:00 閉講式

16:20 解散 (クラブバス)

B. 正課外「中間 G ちゃれ」日曜日の午後などで開催 大学祭期間中の平日なども有る。

13:00 集合 (クラブバスで移動中に、到着後の流 れを説明する)

13:15 受付 (フロント、貴重品ロッカー、ロッカールームの利用法を学ぶ)

13:30 開講式

13:40 講義 (日本のゴルフ場の現状等について; 講師は日本ゴルフ場経営者協会理事等)

14:00 ショット練習・パット練習・アプローチ練習 (ゴルフ場の設備状況による) 各 15 分

14:30 ラウンド (4H 程度) 2 時間程度

16:30 入浴

16:45 閉講式

17:00 解散 (クラブバス)

C. プレーはせず見学するもの(正課内 90 分間)

大学とゴルフ場が隣接していることが条件となる。

- 0分 指定場所に集合
- 10分 ゴルフ場到着、受付、支配人からの挨拶
- 15分 マスター室前
- 20分 練習場見学
- 25分 練習グリーン見学
- 30分 スタートホール見学
- 40分 フィニッシュホールグリーン見学
- 50分 エアガン見学・体験
- 60分 レストラン見学
- 65分 ロッカールーム・浴室見学
- 70分 コンペルーム見学
- 80 分 総評·講話
- 90 分 解散

D. 集中形式、宿泊を伴うもの

初日

午前中 移動

昼 ゴルフ場到着、受付、開講式、昼食 午後 練習場

宿舎へ移動

夕食後 ミーティング・講義

二月目

起床、朝食、ゴルフ場へ移動

午前中 練習場

昼食

午後 ラウンド (2H~9H) ゴルフ場の都合や 学生の技能による。

宿舎へ移動

夕食後 ミーティング・講義・振り返り・ビデオチェック

三日目

起床、朝食、ゴルフ場へ移動 午前中 ラウンド・練習場

昼食

閉講式 • 解散

※事前授業として、学内での講義(90分)、打球練習等(90分×3)大学の単位として認められる時間数を確保する。民間の練習場等も紹介して頂いて、事前授業として活用する可能性もある。

E. その他

例えば、ゼミ活動など

【Gちゃれ開催における注意事項】

(モデルケース A~E 共通)

<コースラウンドの際の指示例>

- ①各組につく教員・ゴルフ場スタッフの指示に従ってください。(スクランブル方式の採用など)
- ②ラフに入ったボールはフェアウェイに戻して打ってください (ノーペナ)。
- ③バンカーは2度打って出ない場合は手で出してください(3打目として)。
- ④フェアウェイ最大 10 打、グリーン最大 5 打までで 終了(最大 15 打)とします。

<手続き・準備>

- ・クラブバス、ドレスコード、昼食、利用料金など について、事前に打ち合わせる。
- 1週間前までに人数を決める。
- ホームページのフォームで申込む。

- ・保険に加入する。
- ・クラブ等用具を手配、準備する。
- 参加者への連絡等。

【まとめ】

これまでに開催してきた「G ちゃれ」から、開催 形態を 6 種類に分類し、A~E のモデルケースを提示 した。このモデルケースを参考に、今後「G ちゃれ」 を開催する大学・地域が増加することを期待する。 また、実際の現場での指導内容、指導スタッフの確 保、単独校開催・複数校開催の調整、複数回参加学 生への対応、4 ホールを 2 時間かけてラウンドする ことの是非など、検討すべき課題もあると思われる。

資 料

【資料】

三者連携協定後の大学ゴルフ授業

-激変した現場レポート-

北 徹朗(武蔵野美術大学)

キーワード: 三者連携、授業環境改善

【はじめに】

2016年6月27日に、大学ゴルフ授業の教育環境 向上を目的とした、いわゆる3者連携が締結された。 3者とは、公益社団法人全国大学体育連合(安西祐 一郎会長)、公益社団法人日本プロゴルフ協会(倉本 昌弘会長)、ゴルフ市場活性化委員会(馬場宏之委員 長)であった。

第2回大学ゴルフ授業シンポジウム(2018年3月24日)では、連携協定締結から約1年9か月後の大学ゴルフ授業の環境変化を報告した。

以下、当日プレゼンテーションで示したスライド (11 枚) を紹介する。本稿を記述した 2019 年 2 月 現在、さらに状況は改善し、3 者連携による恩恵を 受ける大学や関連企業・団体との連携もさらに広が りを見せており、2016 年当時と状況が異なっている。

三者連携協定後の大学ゴルフ授業 一激変した現場レポートー

武蔵野美術大学身体運動文化 准教授 北 徹朗

図1. 発表タイトル



図2.3者連携調印式の様子

激変事例①:ゴルフ場利用が爆発的に広がった!

大学ゴルフ授業の90%以上が「ゴルフ場に行かない」 →大学内の施設(グラウンドや体育館など)で授業完結



2015年8月

受講修了者向けプログラム「Gちゃれ」を開始

2015年: 2回(12名) 2016年: 6回(100名) 2017年:31回(515名)

図3. ゴルフ場利用の広がり

激変事例②: 教具(クラブ)が充実した! 大学ゴルフ授業で使用されている用具の傾向 「古い」、「危険」、「スペックがバラバラ」 「レディスやレフティが不足」 (一社)日本ゴルフ用品協会が窓口となり、メーカー 各社の協力で数千本のクラブが大学に無償提供 延べ約70以上の大学にゴルフクラブが送品

図4. クラブの充実

激変事例⑤: Gちゃれ等への物品提供多数! 制作」(合計200着) 制作」(音話7200者) ・ブリヂストンスポーツ(株)様からの「ブリヂストンオーブン無料観戦チケット」(観戦教育、課外体験の場として) ・ブリヂストンスポーツ(株)様からの「ゴルフボール」提供 ・楽天株式会社様からの「ウッドティー」(年末年始のGちゃれ参加者分) ・楽天株式会社様からの「Gちゃれ用クラブセット」(現在10数セット。増加継続中) ・ゴルフドゥ様からの「サインボール」「グリーンマーカー」「グリーンフォーク」(秋 マグロンマイトを引用者が ・ハ王子CCTまからの「八王子CCオリジナルミニライト」(後期6ちゃれ開催分) ・PGA「素からの「研修会参加教員へのテキスト関係一式」(大体連全国研修会およびPGA大学ゴルフ実技研修会) ・有馬CC様(兵庫県)からのディボットスティック(Gちゃれ開催時毎回) ・GMG/工子ゴルフ場および有馬CC様からの「サボート教員食事無料」および下 (継続増加中!) リンク提供 (順不同)

図7. G ちゃれへの多数の物品提供



図5. 教本と指導マニュアルの充実

激変事例⑥: 共同開発や公開講座の提供!

プーマジャパン 様 ⇒学生によるキャディバッグデザインコンペ

ブリヂストンスポーツ 様 ⇒初心者向けクラブの共同開発

日本プロゴルフ協会 様 ⇒大体連研修会や大学への講師派遣

図8. 用具の共同開発や公開講座の共催

激変事例④: 授業研究会にサポーター企業多数!

<サポーター企業様一覧>

朝日ゴルフ用品 プロギア ゴルフ・ドゥ JKホールディングス 二木ゴルフ ダンロップスポーツ マルマン テーラーメイドゴルフ 本間ゴルフ 渡辺製作所

藤倉ゴム工業 ブリヂストンスポーツ ニューアート・クレイジー

図6. 大学ゴルフ授業研究会のサポーター企業

激変事例②:「大学体育」全体への支援!

公益社団法人全国大学体育連合

- <賛助会員>(順不同)
- •楽天株式会社 様
- ・リクルートホールディングス株式会社様
- ・一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会 様
- ・株式会社ゴルフダイジェスト社 様

図9.「大学体育」への支援

激変事例③: 高等教育に相応しい練習場の提供!

「<u>Bちゃれ」</u> (ブリヂストンスポーツ社様提供)

- ·Beginner (ゴルフ初心者の大学生に適する)
- ・golf in the **B**uilding (都心のビルでゴルフ)
- ・Before and after Gちゃれ (コース体験前後の腕試し)
- ·Between real-golf and Gちゃれ (体験から実践へ)
- ・<u>B</u>ecome golfer (実践からゴルファーへ)
- ・<u>B</u>ridgestone golf garden (ブリヂストンゴルフガーデン)

2018年度は、試験的に10回開催予定

※PGA倉本会長も推奨!!!

図10.Bちゃれ(ブリヂストンスポーツの協力)

激変事例⑨:大学教員への執筆機会!!!!

- 1. ゴルフ用品界社 提供 「我が大学のゴルフ授業」
- 2. 日本プロゴルフ協会 提供 「PGAカレッジゴルフテキスト」
- 3. ゴルフダイジェスト社 提供 「大学ゴルフ授業ワークブック」

図11. 大学体育教員の執筆機会の増加

【今後への期待】

各大学では 20 年以上前のクラブを使い続けていることも多かったが、日本ゴルフ用品協会やそこに属するメーカー各社のご支援により、大学ゴルフ授業向けに最新のクラブを揃えることが可能となった。従来のクラブに比べ振りやすく当てやすい用具を揃えた各大学の授業担当者からは「喜びの声」が多数寄せられ、それらは大学ゴルフ授業研究会のホームページで紹介している。

また、大学ゴルフ授業の特徴の1つとして、開講 は多いものの、その大半は学内での打ちっ放しで完 結し、ゴルフ場を経験しないまま授業が終わる、と いう点が挙げられる。この点については、連携協定 締結前の2014年の段階でPGMから支援頂ける提案 を頂き、2015年にはGちゃれを開始した。

2016年6月の連携協定締結以降はNGK(一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会)を中心とした支援となり開催回数を大幅に伸ばしたが、大学側の立場からすると、多くのゴルフ場事業者の皆様にご協力頂き、さらなる広がりの機会を願っている。

筆者らは「八王子モデル」を提案してきたが、これにより、大学ゴルフ授業を中心とした、副次的・ 波及的な効果が社会問題の解決の一助にもなり得る 可能性を秘めていることを示してきた。G ちゃれ開 催回数が大幅に増え、参加学生数も増加する中、新 たに「サポート教員の確保」の問題が出てきた。

例えば、参加学生の両親や祖父母、一般の方、ゴルフ場会員の方など、初ラウンドを経験しようとする大学生に、安全に配慮したラウンド方法を教示頂くことも可能だと思われる。そして、こうした活動が、高齢ゴルファーの生きがいや、ゴルフを通じた家族の繋がりを深める新たな機会になるのではないかとも考える。参加学生の増加により、このような新たな価値を具現化する舞台は整いつつある。

【参考文献】

- ・北 徹朗、森 正明 (2018) 授業外教育プログラムの展開と意義—体育教育におけるラーニング・ブリッジングの事例—、中央大学保健体育研究所 紀要、第36号、pp.103-113
- ・北 徹朗 (2017) G ちゃれ「八王子モデル」 様々なブリッジングと地方創生の可能性 、日本ゴルフジャーナリスト協会記事、 Online: https://jgja.jp/201711294158/
- ・中央大学保健体育研究所公開シンポジウム (2016)
 「八王子モデル」の発信 様々な架け橋 (ブリッジング)を目指す、於:中央大学文学部 (3 号館3453 教室、2016年12月14日)

資 料

【資料】

東海地区初の G ちゃれ「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告

高橋 憲司 (愛知学泉大学)

キーワード: 貞宝カントリークラブ、愛知学泉大学、豊田市

【はじめに】

大学ゴルフ授業研究会が統括・企画を行う「G ちゃれ」は、2018年2月23日(金)に愛知県豊田市の貞宝カントリークラブ(以下、貞宝 CC とも表記する)にて39回目の開催となり、東海地区では初開催となった。本稿では、第39回 G ちゃれ「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告を行い、活動を通じての今後の課題を提示する。

【貞宝カントリークラブ】

貞宝 CC は、昭和 41 年(1966 年)開業、愛知県 豊田市の市街に近い丘稜に広がるメンバー制の名門 老舗ゴルフコースである。貞宝 CC は、今回の「G ちゃれ」の主幹校である愛知学泉大学豊田キャンパ スの隣に位置しており、大学キャンパス内から、ゴ ルフコースの様子を眺めることができる(写真 1)。



写真 1. 愛知学泉大学から眺める貞宝 CC

【貞宝・豊田 G ちゃれ 開催概要】

主催:大学ゴルフ授業研究会

後援: 貞宝カントリークラブ

日本ゴルフ場経営者協会

日本ゴルフ用品協会

協賛:豊田青年商工会議所

開催日時:2018年2月23日(金) プレミアムフラ

イデー 10:00~17:30

開催場所: 貞宝カントリークラブ

企業協力者:3名

高桑 利季 氏(平尾カントリークラブ)

古泉 裕 氏 (東亜道路工業株式会社)

今瀬 器宇 氏(有限会社加茂・豊田青年会議所)

学生負担費用:2000円(税込み・昼食付)

参加学生:参加大学5大学、参加学生計16名。以下

に内訳を示す。

愛知学泉大学 女性1名 男性5名

椙山女学園大学 女性4名

中京大学 女性3名

名古屋産業大学 男性2名

名古屋女子大学 女性1名

世話人スタッフ:11名

北 徹朗 (武蔵野美術大学)

服部 由季夫 (星槎大学)

森 正明(中央大学)

内山 哲治 (名古屋産業大学)

高濱 優子(名古屋産業大学)

冨田 裕平 (名古屋産業大学)

小山 哲 (中京大学)

高丸 功 (学習院大学)

水野 清 (愛知学泉大学)

高橋 憲司 (愛知学泉大学)

大石 順一(日本ゴルフ場経営者協会 専務理事)

※豊田市、みよし市に協力を要請したが、平昌冬季 オリンピック 2018 の期間であったため、承諾を得る ことができなかった。

高橋:東海地区初の G ちゃれ「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告

タイムスケジュール

時間	活動項目	
9:30	三好ヶ丘駅前集合	
9:40	三好ヶ丘駅出発	
10:00	貞宝CC 到着・チェックイン	
10:30-11:00	オープニング	
	(参加者の紹介と注意事項説明)	
11:00-11:30	講義「ゴルフ場の仕事とは」	
	貞宝CC 副支配人	
11:30-12:30	ステーションレッスン	
	2班(パッテイング・練習場)で実施	
12:30-13:20	昼食・歓談 (パーティーで昼食)	
13:30~	順次ゴルフコース	
	(3~7ホール程度)へ 15:30頃迄	
~16:20	お風呂・着替え・アンケート	
16:30-16:50	クロージング・ チェックアウト	
16:50	貞宝CC 出発	

パーティー編成

東海地区初のGちゃれであったがスタッフが充実 し、学生4名に対して世話人2~3名とした計4パー ティーを編成し、それぞれでラウンドを体験した。

【当日の様子】

当日の「G ちゃれ」の様子を写真にて説明する。



写真 2. オープニングの様子

参加学生、世話人スタッフが同じテーブルにて、 杉浦社長(貞宝 CC)の説明を受けている。上座 テーブルには、杉浦社長、北代表、日本ゴルフ場 経営者協会の大石専務理事が座る。



写真 3. 貞宝 CC 杉浦社長(中央)の挨拶 左奥・北代表、

右手前・日本ゴルフ場経営者協会の大石専務理事



写真 4. NGK 大石専務理事の講義 「ゴルフの歴史と日本のゴルフ事情」「ゴルフ場 利用のマナー」をテーマに講義を展開



写真 5. 講義を受ける学生および世話人の先生 レジュメを見ながら真剣に講義に耳を傾ける学 生諸子





写真 6. 講義「ゴルフ場の仕事」講師: 貞宝 CC 菊岡 副支配人写真(左): 講義をする菊岡副支配人写真(右): 講義中の様子



写真 7. ステーションレッスンをひかえクラブハウス前での会話風景 杉浦社長と会話する学生



写真 8. ステーションレッスン ショット練習



写真 9. ステーションレッスン パッティング



写真10(上・下). 昼食・歓談風景 各パーティーで昼食をとり、コミュニケーションを深めた

高橋:東海地区初の G ちゃれ「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告



写真 11(上・下). コースデビュー直前の光景

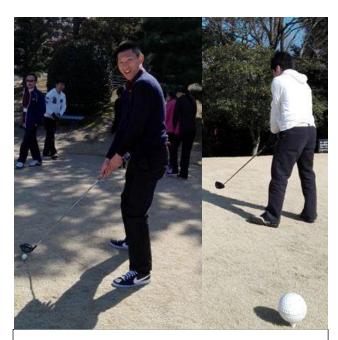


写真 12(左・右). ティーショット直前 学生は、ゴルフ場での人生初のティーショットを 打った



写真 13. ティーショット



写真 14. ショットに際して、教員からアドバイスを受ける学生

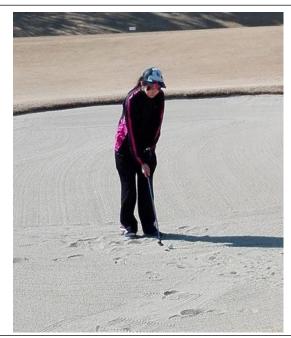


写真 15. バンカーショット 参加者全員にバンカーショットを体験させた

高橋: 東海地区初の G ちゃれ「貞宝・豊田 G ちゃれ」の実施報告



写真 16 (左・右) . パターパット (右) 世話人の教員が熱心にパットのコツを指導



写真 17. フォールアウト後にカート内で記念撮影



写真 18. 杉浦社長の挨拶で「貞宝・豊田 G ちゃれ」を締めくくった。

【実施後の反省点】

今回の貞宝・豊田 G ちゃれは、多くの世話人の先生の参加、社会人の方のサポートもあり、進行も円滑に、大きなトラブルもなく概ね順調に終えることができたと判断している。しかしながら、幾つかの課題も浮き彫りになったため、ここでは、課題と次回以降の対応策について記載する。

課題1:1人に1セットのクラブを準備していなかったため、進行に支障が出た上、終了後のクラブ整理に時間を要した。

経緯と対応策:キャロウェイゴルフ株式会社より寄贈されたフルセットに近いクラブセットを使用したため、クラブ数も多く、共有して使用しても支障はないと認識していたが、パーティーによっては支障が出てしまった。特にパターが足りなかった。今後は、1人1セットを準備することに加え、主に使用するクラブ数本(5本程度)とパターという組み合わせにすることで、プレーの進行や後片付けが円滑になると考えられる。ただし、クラブを収納するゴルフバッグの必要数も多くなるため、ゴルフバッグを確保できる体制としたい。

課題2:学生に対してラウンド中の注意事項が徹底 されていなかった。特にベストホール方式を理解し ていない学生、世話人の指示に従わない学生がいた 事が今後の改善点となる。

経緯と対応策: 当日、学生に対して資料を配布して注意事項を説明したが、学生は話を聞いていても、初めて体験することであるため、理解できていないことがある。今後は、講義、昼食時、コース前と何度も繰り返し、注意事項を説明するとともに、G ちゃれ前に、学内で注意事項を体験できるプログラム(ターゲットバードゴルフにてベストボール方式を体験させる等)を実施し、G ちゃれ本番の予行練習をする機会を設定するなどの対策が必要となる。

課題3:学生4名+世話人2~3名のパーティー編成のため、1台のカートでクラブハウスに戻るのが困難となり、追加でピックアップ用のカートを準備したが、それでもカートに世話人が乗りきれなかった。経緯と対応策:カートで参加学生・世話人をピックアップできるように計画していたが、待機専用の世話人を配置できず、世話人の人員配置が不適切であっため、一部の世話人には、徒歩にてクラブハウス、までの移動となった。今後は、打ち合わせを徹底し、人員配置ミスを回避するとともに、状況によってゴルフ場のスタッフから助力を得られるように連携できるようにしたい。

【実施前に設定した目標と結果】

目標1:ゴルフ場関係者からゴルフ場の仕事に関する講義を実現する

結果:達成

貞宝 CC の菊岡 副支配人より「ゴルフ場の仕事」の テーマで講義が行われた。

目標2:インターカレッジで実施する

結 果:達成

5 大学から学生が参加した。多くの学生は活発に交流していたが、一部、交流、盛り上がりに欠けるパーティーもあった。

目標3:社会人と交流の場を持つ

結 果:一部達成

参加学生の80%が社会人の方と交流する機会があったが、活発な交流となるまでの時間や空間が不足していた。

目標4:行政との連携

結果:未達成

冬季五輪期間であったため、行政は五輪に関係した イベント企画・運営の業務の影響により、今回の G ちゃれには協力を得られなかった。 目標5:メディアとの連携

結果:未達成

行政関係者と同様に冬季五輪による繁忙期であることと、事前の連絡調整不足のため、メディア関係者からの協力を得ることができなかった。

目標 6: 障がいを持った学生の参加

結果:未達成

参加を予定していた学生の健康状況が悪化したことにより、不参加となってしまった。

【まとめ】

東海地区初の「G ちゃれ」となった今回のイベントにおいて、多くの学生・世話人・企業関係者の参加があり、結果として成功裡に終わることができたと感じている。細かな課題や達成すべき目標があるが、今回の反省を生かし、今後の G ちゃれに繋げていきたい。最後に今回使用したポスターを以下に示す。



ゴルフ教育研究

第5巻第1号

2019年(令和元年)7月31日 発 行

発行者:大学ゴルフ授業研究会

編集事務局:〒471-8532 愛知県豊田市大池町汐取1

愛知学泉大学 髙橋憲司 (8-407) 研究室内

TEL 0565-35-8430

E-mail: kentakahashi@gakusen.ac.jp